

平成29年度

# 事業報告

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

社会福祉法人 秩父市社会福祉事業団

## 総務課 事業報告

### 事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
事業の発展、充実、拡大に努めます。	高齢者福祉、障がい者福祉の動向を把握し、今後の事業拡大につながるサービス展開を検討します。	障がい福祉事業の視察や研修に参加し、継続的に情報収集に努めました。また、新規事業「放課後等デイサービス」の開設に向け、指定申請をはじめ、法人をあげてのプロジェクトチームを結成し、開設に向けた準備を着実に行うことができました。
	防災マニュアルに基づき、災害時の備えを行い、必要な業務が継続できるよう危機管理体制の向上を図ります。また、防犯体制を確立し、利用者、職員の安全を守れるよう整備します。	秩父市の障がい福祉事業「星の子教室」「ふぁいん・ユー」の民営化に関する公募に対して、期限内に提出書類を作成・応募し、12月のプレゼンテーションを経て、事業者として選定されました。
	事業団の存在をより多くの方に知っていただくよう、ホームページやパンフレットを利用して様々な情報を発信します。	法人全体の広報誌を2刊発行し、施設の様子だけでなく、法人としての取り組みなど様々な情報を紹介することができました。また、各事業所にフェイスブックの担当者を置くことで、その日のうちに記事の掲載ができ、よりスピード感のある情報発信が可能となりました。
事務手続きを適正に行い、透明性のある経営を行います。	社会福祉法の改正に伴う各種事務手続きをスケジュール通りに遂行し、新理事会、新評議員会の円滑な運営につながるよう努めます。	社会福祉法の改正に伴う各種事務手続きを行い、円滑に理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会を開催しました。また、社会福祉法人現況報告書等をホームページで公開し、事業運営の透明性の維持を図りました。
	法人全体の経費削減に向けて、定期的に予算の執行状況の確認、報告を行います。	助成金に関しては、見守り機能付きの介護ベッドを導入し、介護ロボット普及促進事業への補助金申請を行ないました。また、キャリアアップ助成金を活用するため、規程の整備、処遇改善等を行ない、新たに助成金申請を行ないました。
	適切な会計処理を行い、事業運営の透明性の向上を図ります。	
	各種助成金の活用を積極的に行い、事業運営の安定に努めます。	
職員の定着を図り、人材育成に努めます。	人材育成の具体的な計画を策定するとともに、人事考課制度、目標管理制度及びスキルアップ研修の一体的な運用を行いながら、人間性豊かで専門性の高い職員の育成に努めます。	大学、専門学校、高等学校への訪問、ハローワークとの情報交換を密接に行い、求人活動を早期に開始しました。また、年4回の職員採用試験の実施により、平成30年度には12名の職員が採用される予定となり、人材の確保・定着に取り組むことができました。
	ストレスチェックを導入し、心身の状態を把握しながらメンタルヘルスの不調を未然に防止する体制作りを進めます。	
	個々の職員専門性を向上させるため、職員の資格取得に対する支援を行います。	
法人全体で地域に向けた活動を行い、地域貢献に努めます。	福祉の専門集団として、今までに築き上げた専門的知識を地域社会に向けて積極的に発信していきます。	中津川地区、浦山地区の住民への福祉ニーズのヒアリングの実施、認知症サポーターキャラバン活動やあいサポート運動、彩の国あんしんセーフティネット事業など、公益的な活動に積極的に取り組みました。その他、ほのぼの祭りの町内全戸案内、近隣地区の清掃活動を法人全体で行いました。
	地域活動への参加や交流を通し、施設の活用や福祉避難所としての機能を発揮できるよう、地元町内会や民生委員、近隣企業・施設等と協力を図ります。	
建物及び設備等の適正な管理、見直しを行います。	建物及び設備に関して、修繕及び機器更新を計画的に行います。また、施設に関する大規模改修工事については、補助金や積立金の活用を検討します。	ほのぼのマイタウンにおける電話設備の入れ替えを計画的に行いました。また、秩父市が進める複数施設省CO <sub>2</sub> 化改修事業に全面的に協力したことにより、平成30年度に予定する空調設備、照明設備の入れ替え対象施設として選定されました。

**事業の概要**

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
一人ひとり誰もが生きがいを感じ、笑顔あふれる暮らしの場を利用者と共に創造します。	利用者自治会(なかよし会)において、生活の希望や生活課題への意見を受け止め、利用者の思いに添った暮らしを実現します。 行事、レクリエーションや趣味活動等に取り組み、生きがいをづくりを行います。 利用者一人ひとりの特技を活かしての活動や、利用者の支え合い等を支援し、主体的な暮らしの場を実現します。	なかよし会の開催等を通じ、利用者一人ひとりの希望を受け止め、外出行事や苑でのレクリエーション活動に取り組みました。 小鹿野春祭り、あめ薬師、川瀬祭り、中蒔田納涼祭、熊木町納涼祭、吉田よいご祭り、秩父夜祭、秩父神社節分祭、山田春祭りなど地域行事に積極的に参加しました。また、季節感を感じることができるよう、長瀬の桜見学、骨波田の藤見学、館林つつじ見学、いちご狩り、湘南海岸(辻堂)、伊香保水沢うどん、風布みかん狩り、芦ヶ久保水柱見学などの行事を実施しました。
個人史や人と人との繋がりを尊び、ご家族や地域との関係を大切にすることで、地域社会の一員としての暮らしを実現します。	広報誌の発行、フェイスブックの活用、日々の暮らしの写真の掲示等により、施設での暮らしを発信することで、ご家族や地域の方にとって施設が身近なものとなるよう取り組みます。 ほのぼの祭りや食事会など、様々な行事にご家族に参加いただき、家族関係を深めると共に、ご家族の協力のもと施設生活の充実に取り組みます。 利用者、またその家族の希望に寄り添い、外出・外泊の支援や地域行事への参加等を行うことで、新たな出会いや地域との繋がりが構築できるよう取り組みます。	食事会を通じての家族交流、個人史を汲んでの回想法の実施、一人ひとりの思いを受け止めての買い物や個別外出にも取り組みました。これら様々な実践を通じて多くの人とのつながりが生まれ、たくさんの笑顔のなかで生きがいを創造することができました。 施設を退所された方のご家族を施設にお招きし、お別れの会を行いました。職員とご家族とで、施設での生活の様子や若いころの様子、思い出などを語り、介護者としての労をねぎらうとともに、退所された方と出会えた喜びを共有できるよう取り組みました。
生活困難者等への支援において、迅速かつ適切に対応することで施設機能を最大限、地域に還元します。	秩父市をはじめとした行政機関や包括支援センター等との連携を密接に持ち、虐待等の緊急ケースに迅速に対応します。 重度認知症者や医療ニーズのあるケースについても積極的に受け入れます。 特養入所利用率97%以上、短期入所利用率95%以上を実現します。	行政機関やケアマネージャーから、緊急的に在宅生活が困難となったケースを複数受け入れました。また、徘徊等のある重度認知症者や褥瘡処置等の医療ニーズの高い利用者も受け入れました。 特養入所利用率96.7%、短期入所利用率95.5%でした。
専門機関、専門職としての誇りを持ち、組織として研鑽を積み、謙虚に実践の向上に努めます。	職員間の意見交換を活発に行うことで、一人ひとりの思いを実践の中に活かし、各人のやりがいを高揚し、組織として研鑽を深めます。 認知症の専門研修、人権擁護、事故防止、感染症に関する研修等を行うことで、知識の共有と深化をはかり、職員の資質向上に取り組みます。また、資格取得に向けての気運を醸成し支援します。 嘱託医との連携を適切に行います。また、日々の健康観察を行い、その情報を共有しケアを実践することで健康増進に努めます。 定期的な歯科往診と歯科衛生士の指導・助言に基づき、口腔ケアに取り組むことで健康づくりにつなげます。	誕生日会や食に関する行事を実施し、全国ご当地グルメの提供、デザートバイキング、手作りおやつ、鉄板焼等の実演、井ぶりや麺類、お寿司のセレクト食、年越しそばの会、恵方巻作りを実施し食べることの喜びを感じてもらいました。 嘱託医や協力病院と密接に連携し、利用者の健康維持に努めました。 定期的な大掃除を位置づけ、苑内の美化に取り組みました。また、空気加湿清浄機の導入やこまめな換気に取り組むなど、生活環境の改善に努めました。様々な取り組みを通して職員の生活環境整備に関する意識を啓発しました。 認知症に関する研修、身体拘束・虐待防止研修、看取り介護研修、褥瘡防止研修、リハビリ研修、事故防止研修、感染症に関する研修等を行い、専門的知識を深めました。そして、委員会や係の活動を通じて、職員一人ひとりが責任とやりがいを持って業務と処遇改善に取り組みました。

苑内美化やさわやかな空間づくりに取り組み、心地よく生活できる環境を実現します。また、個別の身体状況等に応じ生活環境を整えることで、安全な暮らしの場を実現しま

食べることの喜びが感じられるよう、ゆったりとした食事場面をつくります。また、一人ひとりの嗜好や食事摂取状況にあった食事提供を行い、食生活の充実に努めます。

グループでのゆったりとした入浴場面の提供や個別性を重視した快適な排泄環境を整えることで、安楽な生活が送れるよう取り組みます。

他職種連携のもと個別機能訓練計画に基づいたリハビリを実践することで、身体機能を維持し、安全に可能な限り自立した生活が送れるよう取り組みます。

## 秩父市立養護老人ホーム長寿荘 事業報告

### 事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
<p>利用者の自主的な生活が営めるよう自己決定を尊重し、自立支援に向けた取り組みを行ないます。ご家族や地域との繋がりを大切にし、地域社会の一員としての暮らしを実現します。</p>	<p>入所者の思いやそのおかれた状況を鑑みて、明るく家庭的な雰囲気の施設生活を通して、その人らしい生活の実現に努めます。</p>	<p>自立支援に向けた取り組みとして、入所者全員に個別面談を行い、本人が望んでいること、できることを再確認し、個別支援計画に活かしました。</p> <p>また、個人の思いが実現できるよう、少人数でのグループ外出、一泊旅行や遠方への日帰り旅行を通して、画一的にならない支援を実施しました。</p> <p>利用者一人ひとりのADL、QOLの向上を考え、施設内作業での役割を担った活動をはじめ、地域の一人として生きがいを感じられるよう、中蒔田地区の清掃活動、納涼祭、尾田蒔体育祭へ参加しました。</p>
	<p>自治会議の開催を通じ、入所者の声に耳を傾けることで、その声を行事やレクリエーション、趣味活動に反映します。</p>	
	<p>入所者個々の身体状況に応じ、少人数でのグループ外出や県外への宿泊旅行など、画一的にならない外出支援、社会参加に取り組めます。</p>	
	<p>広報誌の発行や日頃の生活状況の報告、相談の実施等により、ご家族との繋がりが深まるよう努めます。</p>	
	<p>地元町内の地域活動への参加を通じて、地域の一人として生きがいを持てるよう努めます。</p>	
<p>専門機関・専門職として研鑽を積み、改善改革に取り組み、質の高いサービスを提供します。</p>	<p>入所者の施設内作業を促進し、働く事の喜びと共同生活の喜びを感じることができるよう支援します。</p>	<p>養護老人ホームでの医療ニーズが高まっている現状に対して、嘱託医を中心に、各専門医療機関や埼玉医科大学病院などへの通院支援を行い、医療が必要になっても安心して生活が送れる環境作りを行いました。</p> <p>委員会活動についてはスケールメリットを活かし、他部署との合同開催により、幅広い委員会活動や各種研修を行うことができました。</p> <p>退所支援については身体的、精神的な状況に応じた医療機関、入所施設へ繋がるよう、各関係者と密な連携を図ることによりスムーズに移行できるよう支援を行いました。</p> <p>触法行為者の受け入れでは、再犯防止を軸としながら、その人らしく社会で過ごしていただくことを常に考え、関係機関と協力し支援内容を検討していきました。</p>
	<p>職員間、職種間の情報共有と意見交換により、その人らしさを尊重した支援をチームで実践することで、質の高いケアの実現に努めます。</p>	
	<p>小さな体調変化をしっかり観察し、嘱託医を中心とした医療機関との連携を深めることで、入所者の皆様がいつまでも元気に過ごせるよう健康管理に努めます。</p>	
	<p>身体状況の把握、生活環境の整備、事故防止策の分析などに取り組み、安心で安全な生活の場を構築します。</p>	
	<p>要介護者が必要なサービスを利用できるよう、関係機関と協力し、住み慣れた施設での生活が維持できるよう支援します。</p>	
	<p>退所後も安心して生活ができるよう、身体状況に応じた施設につながるよう関係機関と連携を図ります。</p>	
	<p>高齢者支援に限らず、障がい者(精神障がい、知的障がい)に関する支援方法についても研鑽を積み、多様で幅広いニーズに対する支援ができるよう研修参加や施設見学を積極的に行います。</p>	
<p>全職員で現状課題を把握し、健全な施設運営を図ります。</p>	<p>入所利用率98%を目標とし、安定した運営を図ります。</p>	<p>ほぼ満床の入所利用率を維持し、安定した運営を図ることができました。</p> <p>また、職員全体でコスト意識を持ち、無駄のない物品購入や節電を心掛け、適切な事業運営を行うことが出来ました。</p> <p>秩父市をはじめとした入所措置機関と連携を図り、社会的、経済的に課題のある困難ケースの受け入れを積極的に行い、地域の社会資源として貢献することができました。</p>
	<p>諸経費のコスト削減に努め、適切な事業運営を図ります。</p>	
	<p>秩父市をはじめ、入所措置機関と円滑かつ速やかな連携に努め、経済的および環境的な理由による生活困窮者等に対する社会資源として地域社会に貢献します。</p>	

## 蒔田デイサービスセンター 事業報告

### 事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者、家族の方が住み慣れた地域で生活が続けられるよう地域に根ざしたサービス提供ができるよう努めます。	積極的に利用希望者を受け入れ、利用率の向上(目標80%)を図り、また、諸経費等のコスト削減に努めます。	利用率は目標の80%となり、利用者の希望に沿った短時間・短期間利用、個別外出、個別リハビリなどを実施しました。 理学療法士によるリハビリサービスでは、車椅子から歩行器歩行へとリハビリによる成果も見られ、利用者の意欲向上を図ることができました。
	より多くの方々に利用して頂けるよう地域のあらゆる資源を活用して、特色のあるサービスの提供に努めます。	終末期を迎えた利用者家族から「お風呂に入れてあげたい」と希望があり、短い期間でしたが対応することができました。
	理学療法士による専門的なリハビリの実施と、充実した看護体制により、医療ニーズの高い方の受け入れを行います。	広報誌やフェイスブックを利用し情報配信を行いました。昨年度より多くの情報を更新することができました。
	広報誌・ホームページ等で広く活動内容を情報発信します。	
	日常生活支援総合事業、障がい福祉サービス利用者の受け入れを積極的に行い、地域に密着したサービス提供を職員全体で取り組みます。	引き続き、障がい福祉サービスの受け入れを行い、6名の方を受け入れることができました。 ちちぶ通所介護事業者連絡会への参加により、地域の情報収集や研修などへ参加しました。
	居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関、家族等と情報交換を密に行い連携を図ります。	
職員の資質向上と人材育成を行います。	外部、内部研修へ積極的に参加し、それぞれの事業所及び職員が持つ情報や知識を事業所全体で共有して活かしていきます。	毎月ミーティングを開催し、職員一人ひとり質の高い福祉サービスの提供を目指し、研修会の開催や事業所主催の研修へ参加しました。
	毎月のミーティングや毎日の申し送りで、利用者の情報を共有し利用者一人ひとりに寄り添った支援を行います。	毎朝の申し送りで利用者の情報や家族の希望など細かな情報を共有し、より良いサービスの提供ができるよう取り組みました。
	事業所間相互の協力体制を確立し、各事業所と連携を図り業務の効率化に努めます。	
	安全衛生委員会を通じて安全で快適な職場環境の整備に努めます。 また、職員のモチベーションを低下させないよう、メンタル面のフォローアップを行い、心の健康管理に努めます。	職員のメンタルヘルスでは、個別に職員からの聞き取りを実施することで日頃の不安を軽減するよう努めました。体調不良者については、本人と相談しながら負担なく勤められるよう勤務調整を図りました。
	OJT・OFF-JT、自己啓発等の行いやすい体制づくり、資格取得に向けた支援体制、人材の育成に努めます。	
安定したサービス提供に努めます。	制度の動向・方向性を的確に把握し、職員が分かりやすく周知できるよう努めます。	毎月のミーティングで、介護保険制度や利用者に必要な情報を提供する機会を設けました。
	事業所の稼働状況を定期的に分析し、適正な収入が確保出来るよう努めます。	
	職員一人ひとりに至るまで共通の意識と目標が浸透した職場づくりに努めます。	

## 秩父市高篠デイサービスセンター 事業報告

### 事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者一人ひとりが、それぞれの持てる力を活かしながら、住みなれた地域で安心して生活できるよう支援します。	利用者が安心して在宅生活が継続できるよう、地域、医療、介護といった他職種連携による「チームケア」で支援します。	住み慣れた地域で生活が継続出来るよう、地域、医療、介護等の多職種間での情報共有やケア会議に参加し連携が図れました。また利用者の身体、精神状態の変化や、家族の状況変化に対応すべく、サービス内容の変更を提案し、その人に合ったサービス提供が出来ました。
	利用者が持つ豊かな経験と知識、技能を活かせるような環境を整備します。	
	利用者が望む場所での生活を継続していくために、身体状況や家族の変化に対応しながら支援します。	
多様化する利用者ニーズに応えられるよう、福祉サービスの提供体制の充実を図り事業を展開していきます。	定員を30名から35名に増員し、困難ケースの積極的な受け入れ、また多様化するニーズにも柔軟な受け入れが出来るよう努めます。	定員を30名から33名に増員出来たことにより、多様化するニーズに応えられ、より多くの新規利用者受け入れに繋がる事業が展開出来ました。また利用日の追加や振替え利用しやすくなり、利用者や家族の希望にも沿えるサービスが提供出来ました。
	利用者一人ひとりに、きめ細かな支援を行えるよう、介護保険などフォーマルなサービスだけでなく、ボランティア等の協力を得ていきます。	
	上質なサービスを安定的に提供するため収入の確保と、できる限りのコスト削減に努めます。	
人材育成に努め、利用者のニーズを把握するとともに、質の高い福祉サービスの提供を目指します。	職員の資質の向上に資するため、年間計画に基づいて、職員対象の研修を積極的に行います。	チームによる質の高い福祉サービスの提供を目指し、年間計画に基づき毎月の研修を行いました。また事業所外の研修参加を促し、職員それぞれの立場にあった指導を行い資質向上に努めました。
	職員それぞれの立場にあったスキルアップ・モラルアップ・モチベーションアップを図り、チームによる質の高い福祉サービスの提供を目指します。	
	OJT・OFF-JT、自己啓発等の行ないやすい体制づくり、資格取得に向けた支援体制の充実に努めます。	
地域に広く開かれた高齢者福祉施設として、地域行事へ積極的に参加する機会を設け、地域との交流を深めます。	地域特性を活かしつつ、学校や学生ならびに地域ボランティアの受け入れを積極的に行います。	地域に広く開かれた高齢者福祉施設として、地元小学校との交流会を定期的を実施しました。また、学生ボランティアの受け入れやボランティアグループの受け入れを積極的に行い地域の方々にも参加いただける行事を開催しました。このような活動内容を広報誌・ホームページを通し発信しました。
	地域住民から寄せられる介護相談等に積極的に対応し、在宅支援の役割を担います。	
	広報誌・ホームページ等で広く活動内容を情報発信します。	

## 秩父市上吉田デイサービスセンター 事業報告

### 事業の概要

事業計画	主な事業の実績	主な事業の実績
共通の課題認識をもち全職員で施設運営に参画します。	日々の光熱水費の使用状況を把握し、節電・節水に努めます。必要物品について検討し諸経費等のコスト削減を図ります。	昨年度より地域密着型通所介護へ移行し、定員を15名から18名に増員しました。年間の平均利用者数は13.9名で利用率77%でした。 地域密着型サービスの要件である、運営推進会議を7月と2月に開催しました。会議では、上吉田・石間地区の民生委員9名の方に参加して頂き、地域の現状について協議しました。  冊子の作成やフェイスブックを活用し、各事業所に積極的に情報発信を行いました。
	利用定員を地域密着型通所事業最大の18名へ定員拡大し、各手続きを行うと共に新制度の正確な把握と対応に努めます。	
	広報誌やホームページを活用した積極的な広報活動を行います。また、ケアマネージャーへのアプローチを積極的に行い、利用率の向上を図ります。	
支援困難事例や重度の利用者の受け入れを積極的に行い専門職として質の高いサービスを提供します。	コミュニケーション技術、介護技術を習得し、職員一人ひとりのスキルアップを図ります。様々な利用者への支援が的確に行えるよう体制を整えます。	地域密着型通所介護への移行と、「介護予防・日常生活支援総合事業」の対象者を積極的に受け入れた結果、平成29年度は18名の新規利用がありました。介護支援事業所以外にも、家族からの直接の相談や依頼に柔軟に対応し支援を行いました。
	緊急時の対応、事故防止、認知症についての研修を実施し、職員の資質の向上を図り、利用者に安心、安全なサービスを提供します。	
	月1回、ミーティングを実施し利用者の状況、事業所内での課題を検討し、事業所全体のサービスの質を向上していきます。	
近隣の地域の人との関係を構築していきます。地域に密着したデイサービスを実現します。	地域住民から寄せられる介護相談等に積極的に対応し、地域住民が安心して在宅生活が継続していけるよう支援します。	運営推進会議での地域住民の意向を踏まえ、地域の避難所として、9月3日に上吉田地区の防災訓練を行いました。調理実習室を使用し炊き出しの訓練も行いました。 地域での一人暮らしの方や生活に不安のある方の見守り、声かけ支援を継続して行いました。
	近隣の吉田地域や小鹿野方面への外出を実施し、地域との交流、つながりが深められるよう支援します。	
その人らしさを大切に幸せを感じる事ができるようなデイサービスを全職員で創造します。	全職員でレクリエーション活動を考え作業分担などを協力して行います。	利用者一人ひとりの家族事情や生活スタイルを踏まえて、買い物や季節に応じた地域行事への参加など、余暇活動を積極的に行いました。また、個別外出も実施し、両神のダリア園や道の駅への外出行事を行いました。
	利用者の個別ニーズに合わせた外出やレクリエーションを実施することにより個別支援の充実を図ります。	
	ボランティア、慰問の受け入れを積極的に行い地域、世代間の交流を深めていきます。	



## 秩父市立上吉田高齢者生活支援ハウス 吉祥苑 事業報告

### 事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
高齢者生活支援ハウスに求められる役割を自覚し、地域福祉の発展と向上に貢献します。	秩父市および包括支援センター、居宅介護支援事業所など関係機関と連携し、入居等の相談、緊急入居事例等に速やかに対応します。	平成29年度の新規入居者数は7名、退居者は10名で、3月末日時点での入居者数は18名でした。上吉田デイの運営推進会議時に、地区の民生委員を対象に、吉祥苑の施設見学を実施しました。その他にも、見学者には施設案内を通じ、機能や役割の説明を行いました。地域行事として、上吉田東町会文化展、吉田文化祭、フルーツ街道かかし祭りに上吉田デイと共同で作品を出展しました。
	近隣地域に吉祥苑の機能や役割を周知します。地域行事等に積極的に参加し、地域との一体感を高めます。	
	とくし丸等の移動商店での買い物の機会を開放し、地域の方の利便性を向上します。	
職員1人ひとりの介護技術、相談援助技術の向上を図り、質の高い福祉サービスを提供します。	上吉田デイと共同して年間研修計画を策定し、計画的・組織的な職員研修を実施します。	照明の経年劣化に対し、不具合の起きた個所からLED照明への切り替えを行い、施設環境の整備を行いました。上吉田デイで実施する食事イベントにも利用者の参加を促し、ひだまり会の活動を活発に行いました。10月に日帰り旅行(羽生PA、加須道の駅)を実施しました。1月に上吉田デイと合同の新年会を実施しました。
	物品の購入や施設整備の保守・修繕について適正な管理を行います。職員による日常的な保守点検および修繕を実施します。	
	日帰り旅行、夕涼み会、お花見など、入居者のQOL向上に資する余暇活動を計画・立案し、実施します。入居者のニーズを汲む機会として、ひだまり会(入居者自治会)を定期的実施します。	
「一日でも長く地元地域で暮らしたい」という要望を実現するため、安心・安全な生活を送れるよう支援します。	市民福祉課、包括支援センター、警察署等の関係機関と連携し、入居者の消費活動を守るとともに、防犯意識を高めます。	6月に小鹿野警察署の協力のもと防犯訓練を実施し、不審者対応や通報、さすまたの使用法等を学びました。訓練後も、小鹿野警察署より防犯啓発のポスターを提供して頂き、苑内に掲示しました。9月に実施した避難訓練では、地震発生からの火災を想定し、災害時の訓練を合わせて行いました。また、上吉田東町会の防災訓練の会場として施設を使用しました。2月の避難訓練では入居者にも参加して頂き、消火器の取り扱い訓練を行いました。上吉田医院の定期往診には延べ11名、倉林歯科の往診には延べ6名の入居者が対象となりました。
	上吉田医院、倉林歯科クリニックによる内科・歯科往診を実施します。早朝・夜間帯の職員不在時の緊急事例に対し、関係者間で連携し迅速に対応します。	
	消防訓練・災害訓練を実施し、非常災害時の対応を強化します。また、防犯訓練を実施し、施設の安全性を高めます。	

## 秩父市社会福祉事業団居宅介護支援事業所 事業報告

### 事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
市町村・包括支援センター及び医療機関との連携を全職員で深め、積極的に新規利用者の受入れを行います。また、市町村からの委託業務等も継続的に行います。	困難ケースや緊急ケースの受け入れを積極的にいき、各個人がその人らしい生活が送れるように支援します。	各医療機関におけるソーシャルワーカーや医師、看護師との情報交換等も実施し、医療機関からの依頼も多く受託することができました。
	年間を通して220件以上の支援者数を維持します。	在宅での看取り介護件数が増加する中、大滝地区でも在宅ターミナルケアのマネジメントを実施することができました。
	介護保険委託業務の認定調査を実施します。	市町村や各地域包括支援センターとの連携を図り、上吉田地区や中津川地区の利用者の支援も行うことができました。また、地域包括支援センターが実施している、介護支援専門員連絡会にも定期的に参加し、他事業所との連携を図りました。
	『介護予防・日常生活支援総合事業』の委託受け入れを積極的に行います。	支援者数については、終了者も多い中、介護度の高い方の支援を積極的に受け入れました。
	認定審査会への出席を継続して行います。	
	市町村及び各包括支援センター、医療機関や介護保険事業所との情報交換を行い、更なる連携強化を図ります。	
専門的な知識を深め、ケースワークの技術を更に高めることで、個人の生活の質が向上できるような支援を行います。主任介護支援専門員の更新研修へ参加し資格要件を維持します。	地域サービスや新規事業所、インフォーマルサービスの把握を行うことで、ケースワークの質を高めます。	市町村が主催する研修や、各事業所が自主的に実施する研修にも積極的に参加しました。
	介護支援専門員更新研修及び主任介護支援専門員更新研修、県・市町村・各事業所の主催する研修へ積極的に参加し、専門的知識の向上に努めます。	各介護支援専門員で持っている地域情報や、各事業所の特色等も共有することで、利用者のニーズに合わせた事業所の選定を行いました。
	「特定事業所加算Ⅱ」の算定を継続できるように、算定要件を理解し、体制・支援内容等の維持や変更を行います。	特定事業所加算に関する研修についても専門員個々が参加し、算定要件を満たすとともに、ケースワークの質を高めることができました。
	計画的な研修計画を介護支援専門員へ実施します。	
『介護予防・日常生活支援総合事業』において、利用者の抱えるニーズに合わせた支援を行っていきます。	包括支援センター等から依頼された困難ケース等の事例にも積極的に受け入れを行います。	各地域包括支援センターや医療機関から、対応が難しい事例に対して、複数の介護支援専門員で関わり、工夫して支援しました。また、特定事業所集中減算については、公平性で適切な地域資源活用に努めました。
	「運営基準減算」や「特定事業所集中減算」等の適用を受けないよう適正な事業運営を継続します。	介護報酬の改定について、正確な情報を把握し、他の事業所とも連携を密に図り、適正な事業運営ができるよう努めました。
	法改正及び報酬改定への動向や理解を深め、様々なケースに対応できるようにします。また、「介護予防・日常生活支援総合事業」「地域包括ケアシステム」「地域ケア会議」等への連携・協力を行います。	

## 秩父市ヘルパーステーション 事業報告

### 事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
在宅での生活が継続できるよう利用者の自立度や障害特性に合わせたサービスを提供できるよう、職員の資質向上を図ります。	医療・福祉・介護等に関する外部研修への参加、新規職員研修として特養・デイサービスでの実務研修を実施し、職員のスキルアップを図ります。	月1回のミーティング及び内部研修会を開催し、職員の情報共有と資質向上に努めました。内部研修では、様々なケースに対応できるよう、直面している課題に対する事例検討会や障がい者の特性等、身近な例を挙げて参加者全員がわかりやすい内容の研修を開催しました。
	月1回のミーティングを開催し、利用者の情報共有、支援内容の確認、事例検討・職員研修の実施、報告・連絡・相談の場とします。	
	介護福祉士等の国家資格や障がい者支援に関連する資格取得をサポートし、事業団の専門機能を高めます。	
利用者及びご家族や地域との連携を深め、地域に根付いた事業所を目指します。	関係機関との情報交換等を行い、連携を強化することで、発生する課題に対し迅速な対応を行います。	関係機関との連携を深めるためにコミュニケーションを密に図り、利用者の課題に対し迅速に対応することを心掛けました。サービス提供責任者による自宅訪問を行い、利用者との信頼関係を構築し、現状把握に努めました。生活課題等に直面した時にはケアマネージャーに報告し、状況に応じて支援提供を行うことができました。
	利用者及びご家族に対し支援内容を解りやすく丁寧に説明し、意向や希望を尊重した支援を行います。	
	利用者・ご家族等へ様々な情報を発信できるよう、自宅訪問の際に適切な情報提供と、必要に応じてケアマネージャーや関係機関の情報提供を行います。	
高齢者及び障がい者の積極的な利用受け入れを行い、安定した事業所の運営を行います。	支援困難・緊急なケースを積極的に受け入れるため、事業所に滞在するヘルパーを配置し迅速な対応を行います。	居宅介護支援事業所、障がい者相談支援事業所や地域包括支援センターと良好な関係を構築し、積極的に新規利用者の受け入れを行いました。 年度末には、訪問者数が109名となり、前年度より11名増加しました。
	訪問者数の増加(目標110名)を図ります。	

## 秩父市重度心身障がい者通所施設ふあいん・ユー 事業報告

### 事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
利用者、ご家族に安心して利用していただけるよう、質の高いサービスを提供します。	利用者の体調変化には常に細心の注意をはらい、適切に対応します。また、利用中の様子を細かくご家族に報告します。	利用者一人ひとりの体調管理を適切に行い、変化がみられた時には適宜電話連絡するなど利用者・家族が安心して利用できるよう努めました。
	職場内での研修を年2回実施し、職員の資質向上と意識の統一を図ります。	職場内での研修を年2回企画・実施し、職員の資質向上に努めました。
	快適な室内環境等の整備に努めます。	冷暖房機器等の適切な使用により、極端な温度差を無くし利用者に快適に過ごしてもらえるよう努めました。
	定期的に広報誌の発行(年4回)と家族懇談会(年2回)を開催し、ご家族との関係性、信頼関係を深めます。	広報誌「ふあいん通信」の発行、家族懇談会(年2回)を開催し、家族や各関係機関との信頼関係を深めるよう努めました。
	秩父市と連携し、施設設備の補修、修繕などを計画的に行います。	秩父市障がい者福祉課と連携を図りながら、施設設備の確認と補修、修繕を行いました。
利用者のニーズに沿い、楽しんで頂けるサービスを提供、支援します。	レクリエーション活動に職員全体で取り組み、施設内での楽しみを増やします。	プロジェクターによる映画観賞やカラオケ機器の活用、カードゲームなど皆で楽しめる室内レクリエーションを行いました。
	地域のイベントへの参加や、外出行事を行い、季節感や地域性を感じてもらえるよう支援します。	地域で開催されている祭りやイベント、花木の見学等、季節感を感じられる外出を行いました。また、買い物など利用者の要望に沿った個別性の高い外出を行いました。
	地域のボランティア等の活用や、施設行事を増やし、楽しみの機会、交流の場を増やします。	地元のボランティア団体との交流を継続、また外部イベントへの外出等により利用者の社会交流が図れるよう援助しました。
障がい者福祉の支援ネットワークを構築します。	秩父特別支援学校、各事業者など関係機関の会議やイベント等に参加し関係を深めます。	秩父障がい者雇用支援連絡会議へ参加し、事業者、特別支援学校職員との連携を図りました。
	相談支援専門員との連携を図り、各利用者の支援に関する情報の共有を図ります。	各利用者の相談支援専門員と連絡を取り、情報の共有や課題の把握に努めました。
	秩父市障がい者福祉課との連携を維持し、安定したサービスの提供を行います。	秩父市障がい者福祉課と連携を図りながら、避難訓練の実施や、施設設備の確認、修繕を行いました。

## 障がい者相談支援センター ほのぼの 事業報告

### 事業の概要

事業計画	主な事業の内容	主な事業の実績
関係機関との連携を強化し、積極的に利用者の受入れを行います。	市町村、特別支援学校、病院等と連携を図りながら、総支援者数70件以上を目指します。	相談支援専門員が2名となり、市町村からの相談依頼を積極的に受けたことで、障がい者53名、障がい児18名、総数71名の支援を行うことができました。各関係機関と連携を図り、活発な意見交換等を行うことで、相互の信頼関係を構築することができました。放課後等デイサービスの新規事業開始に伴い計画作成の依頼が増え、児童の相談支援者数が大幅に増加しました。
	定期的にケース検討の場を持ち、情報の共有を図りながら、個々のケースに円滑に対応できる体制をつくります。	
相談援助技術の質を高め、自立支援に向けたサービス支援に努めます。	ライフステージに応じた切れ目のない支援と個人のストレングスを活かしたサービス等利用計画の作成を行います。	埼玉県主催の相談支援従事者初任者研修に参加し、リフレーミング視点を意識したアセスメント、個人のストレングス、エンパワメントを活用した計画作成などを学ぶことができました。また、自立支援協議会開催の研修では、高次脳機能障害者に対する支援方法および障害の特性、県内各地域におけるサポート事業等についての知識が深まりました。制度の知識を深めるために、成年後見制度の活用に向けた勉強会にも参加しました。
	自己決定を尊重し、本人の持てる能力を最大限活用した自立支援を行います。	
	県、市町村、自立支援協議会等が開催する研修会、勉強会に積極的に参加し、専門性の向上に努めます。	
障がい者へのサポートを強化し、地域でできる取り組みを考えます。	当事者との話し合いや相談の場を持ち、障がい者の暮らしやすい地域づくりに向けて、障がい福祉ニーズの把握に努めます。	障がい福祉サービスの利用について相談を受ける中で、市内で不足しているサービスの把握を行うことができました。市内各所で地域住民等に対して、障がいに関する研修会を行い、障がい者に対する理解を深め、地域共生の重要性をアピールすることができました。
	地域で障がいに関する研修会を実施し、障がいの理解を広めます。	